

生活単元学習「お祭りわっしょい」(小学部)

授業者支援会議の方法を取り入れた授業改善

南魚沼総合支援学校 松矢 貴征

授業者支援会議とは

実践障害児教育 2012.08 「指導方法の改善1(田村康二郎)」に紹介されていた授業改善の方法。授業者支援という目的を明確にし、授業者が見落としている方法や授業者自身の授業改善の手がかりを発見する場とする。

1 授業者支援を明確にする

- ・全員で授業者を応援し、授業者が悩み、困っていること(オーダー)の解決策を得る。
- ・明日の授業づくりに直結する場とする。

2 参加者を支援者に

- ・参観者である参加者はすべて支援者と位置づけ、各自の役割を明確にし、授業参画への動機付けとする。
- ・支援者が支援者会議で行うことは解決策の提案に絞り込み、焦点を散漫にしない。

3 授業者が納得できる授業改善に

・解決策を取り入れるかどうかは、授業者(MT)「授業者が納得できたもの」で「次回の授業からでも取り入れられるもの」で決める。

	目的	授業者	参加者	所要時間	方法
授業者支援会議	授業者の支援	改善策を得る	支援者	短い	改善提案
従来のやりかた	研究協議	自評・質疑	参加者	長い	意見交換

事前準備
授業者: 担当する児童・生徒についての学習状況を振り返る。
縦割りの授業なので児童の具体的な支援方法の情報が欲しい。

オーダーの明確化
A児について、お客さんのチケットを切る手順を確認するアイデアが欲しい。
B児について、準備活動(道具の配置、片付け)や係活動の集中が難しい。
C児について待ち時間がもたないので良い方策はないか。

指導案制作時の工夫
支援者(ST)の先生方への依頼事項(担当児童の活動支援)や教室配置を明記し、学習の経過を簡潔に記載する。

支援者=参加者: 依頼された内容の共通理解と役割の分担

- ① 事前の短い打ち合わせ
支援チームのメンバー確認とオーダーの共通理解
- ② 支援情報収集のための役割分担

授業者支援会議

- ① 状況理解 ・支援者による役割分担から得た観察結果から
- ② 個人作業 ・支援者による授業改善の立案(付箋記入)
(観点 発問、学習課題、教室レイアウト、教材など)
- ③ 提案共有 ・支援策の付箋紙を集める。不明な点は説明してもらおう。
○手順をカードにして手元に置く。(A児)
○道具準備よりもボイスレコーダーを使って客寄せをする。(B児)
○お客さんが来た順番を分かりやすくするため、椅子の配置を変える。(C児)
○待ち時間に塗り絵をする。(C児)
○待ち時間が分かるように、タイマーを置く。(A、C児)
- ④ 提案整理 ・カテゴリー化し、整理する。
- ⑤ 支援選択 ・次回までに指導案にまとめる。

授業

授業者: 授業情報の提供の場
支援者: 支援アイデア・プラン立案のための基礎情報収集の場



授業改善開始(反復)
↓
支援策の有効性についての
検証と還元

成果と課題

「簡易でも指導案を作る、修正する」の工程を反復することが、協力していたただくSTの先生方のためにも重要な要素だと感じた。自分が見落としている方法がたくさんあることもよく分かった。特別支援学校では複数の教師で授業進めていくことが多いので、連携をとるためにも有効と思いました。

